

周波数ひっ迫対策技術試験事務・平成28年度終了評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
新たな携帯電話システムの導入に関する技術的条件の検討	H26-H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標とする対象周波数に対して、適当な技術検討が行われ、課題の抽出が行われており、目標が達成されている。</li> <li>・これからの移動通信の発展に必要な電波資源開拓のために有益である。</li> <li>・本技術試験事務において、第4世代移動通信システムを使用可能とする技術的条件を検討するための課題を整理し、技術的な調査を実施した3.6-4.2GHz帯は、当該周波数帯は第5世代移動通信システム(5G)の実現に向けて利用が想定される周波数帯となった。</li> </ul>	4.1
920MHz帯RFIDの屋外利用等に関する技術的条件の調査検討	H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術基準の策定に反映される成果が得られている。</li> <li>・920MHz帯1Wパッシブタグの屋外利用について、各種無線システムへの影響がないことや帯域内の既存無線システムについては数十mの離隔距離を取ることで共用可能であるとの結論が得られており、周波数ひっ迫対策のための技術試験事務として有益だったと判断する。</li> <li>・これからのIoT時代に向けて、通信以外の電波利用がますます広がるものと想定され、電波利用の拡大にとって有益である。</li> </ul>	4.0
Ka帯を用いた移動体向け海上ブロードバンド衛星通信技術に関する検討	H27-H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術条件の関する特性が良く整理されており、また情報通信審議会での一部答申も済ませられていることから成果目標は十分達成されたと考える。</li> <li>・移動体向け海上ブロードバンド衛星通信システムについて、Ka帯を有効利用するために、Ka帯を有効利用するため、調査、シミュレーション、実証試験を行い、その結果を分析し、無線設備の技術的条件として取りまとめたことから衛星通信周波数のひっ迫を緩和を図るために有益であったと判断する。</li> <li>・総合的に有益である。</li> </ul>	3.8